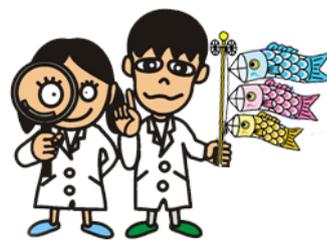


# 5月の衛研検査情報

## ～トピックス～



### A群溶血性レンサ球菌のT型別について

A群溶血性レンサ球菌感染症は、感染症法の五類感染症に定められています。この病気は、劇症型では手足の筋肉などの軟部組織に壊死性の炎症を伴う重篤な症状を呈します。また、咽頭炎は主に小児に多く見られ、その他に扁桃炎や猩紅熱、続発症として急性糸球体腎炎、リウマチ熱などを発症することがあります。

この病気の病原体であるA群溶血性レンサ球菌は、*Streptococcus pyogenes*（ストレプトコッカス・ピオゲネス）という細菌で、病原体サーベイランスの対象として常に監視されています。

このサーベイランスでは、小児科の定点医療機関から横浜市衛生研究所へ、咽頭炎症状を示す患者さんの咽頭ぬぐい液（これを「検体」と呼んでいます）を送ってまいります。この検体からA群溶血性レンサ球菌を分離して、菌体表層に存在するT蛋白の血清型別を行い、どのような種類のA群溶血性レンサ球菌（これを「株」と呼んでいます）が流行しているかを把握します。

今月号では、平成22年1月から12月までの一年間に分離して、血清型別を行った検査結果を報告しています。

**主な結果** 92検体から分離された株は計67株で、T1型（26株）、T28型（15株）、T12型（11株）の順で多く見られました。

### 食品中異物検査（昆虫類）のまとめ

医動物担当では、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心に、食品に混入した異物について検査を行っています。平成22年度は12件の依頼がありました。

今月号では、同定結果の詳細を報告しています。



**主な結果** 依頼された12検体のうち昆虫類は9検体で、チョウ目3検体、コウチュウ目2検体、ゴキブリ目2検体、ハエ目1検体、ハチ目1検体でした。

### 衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページは、平成10年3月に開設され、感染症情報や保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。

**主な結果** 平成23年3月は、災害用保存水についてが急増し、先月に続けてマイコプラズマ肺炎、ポリオ、感染性胃腸炎（ロタウイルス）に関するページのアクセス数が多くみられました。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査等の結果に解説を加え、毎月、「検査情報月報」として報告しています。